

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0272100736		
法人名	社会福祉法人つがる市社会福祉協議会		
事業所名	グループホーム安住の里		
所在地 (電話番号)	〒037-0104 青森県つがる市稲垣町豊川宮川143番地1 (電話) 0173-46-3100		
評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成21年10月8日	評価確定日	平成21年11月25日

【情報提供票より】(平成 21年 9月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 13年 10月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 9人, 非常勤 人, 常勤換算 9人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	1 階建ての 階 ~ 1 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	3,000 円	その他の経費(月額)	3,000 円
敷金	有(円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1日当たり 780 円			

(4) 利用者の概要(9月 1日現在)

利用者人数	9 名	男性 0 名	女性 9 名
要介護1		要介護2	
要介護3	3 名	要介護4	5 名
要介護5	1 名	要支援2	
年齢 平均	87.7 歳	最低	80 歳
			96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	尾野医院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

旧稲垣村にあり、長閑な田園風景に囲まれている。周辺には小学校・中学校・高校があり、文教地区になっている。隣接施設には、催事や結婚式場として使用されている多目的施設の地域交流センターがあり、コンサート等の催し物への参加・見学を行っている。グループホームは、特別養護老人ホームに併設され、夜間や非常時の協力体制がとられている。ホーム内では、定期的に内部研修会が開催されており、職員の育成に積極的に取り組んでいる。年々重度化する中で、併設特養の看護師と協力して平成20年度には2名の看取りを行った。昼食前には嚥下体操を全員で行い、身体の活性化と食欲増進を図っている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	かかりつけ医の通院継続を支援し、入居者の重度化への対応に重点を置いて取り組んでいる。平成20年度には医療機関や特養の協力を得て2名の看取りを行った。ターミナルケアや重度化の対応については、職員の不安を軽減するために勉強会を積極的に実施している。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は職員全員で行っている。自己評価の中で気付いた点については、改善計画書を活用して、職員が改善計画の立案をし取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2ヶ月に1回開催し、地域のニーズについて情報収集している。ホームからは認知症や入居について・介護保険制度の改正についての情報提供、行事内容の紹介・活動状況の報告があり、意見交換を行っている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)
	家族の面会時に近況報告をしている。面会に来られない家族には、写真にメッセージを添えてホーム便りを送付している。ホーム通信は年3回発行しており、日常の活動状況や外出の様子を報告している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し、地域の行事や奉仕活動に参加して運営協力をしている。隣接する地域交流センターや老人クラブで開催されるイベントに参加したり、催事の見学・鑑賞に出向いている。また、ホームでは介護者教室を開いて、認知症の理解と対応について地域での普及活動に力を入れている。

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中で入居者が安心して暮らせるように、地域生活の継続支援を事業所の理念としている。理念は、事業所職員全員で地域密着型サービスの意義を確認し作り上げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	入居者一人ひとりの日常生活支援において、理念に基づいてケアが提供できるよう十分な検討がなされ取り組まれている。		
2. 地域との支えあい					
3	4	隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	地域町内会に加入し、地域の行事や奉仕活動に参加するなど、地元の方々と交流を図り、運営協力をしている。隣接する地域交流センターや老人クラブ・福祉センターで開催されるイベントに参加したり、催事の見学・鑑賞に出向いている。また、事業所では介護者教室を開いて、「安心して暮らしていくための認知症の理解と対応について」をテーマに地域での普及活動に力を入れている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>職員全員で自己評価を行っている。評価を進めていくなかで気付いた点については、改善計画書を活用して、職員が改善計画を立案し取り組みとして実施している。</p>		
5	6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は2ヶ月に1回開催している。会議の構成メンバーは、民生委員・老人クラブ代表・保健委員・区長、市職員・家族代表、職員が出席しており、地域のニーズについて情報収集している。ホームからは認知症や入居について、介護保険制度の改正についての情報提供、行事内容の紹介・活動状況の報告があり、意見交換を行っている。</p>		
6	7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市町村担当者とは、支所が近くにあるため、直接役所を訪問してサービス内容や運営の考え方について質問している。また、随時電話連絡で担当者と相談している。</p>		
7	8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>内部研修・外部研修や勉強会が実施されている。金銭管理等のサービス利用者は現在いないが、社協職員として実施事業である地域福祉権利擁護事業の実務と理解ができています。成年後見制度についても内部研修・外部研修や勉強会が実施されている。</p>		
8	9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>事業所内研修や勉強会を実施し、虐待による弊害について理解できるよう努めている。マニュアルの作成や資料収集により、各自が閲覧して虐待防止を徹底している。職員は、言葉遣いに注意を払い、入居者に接するよう接遇のマニュアルを作成している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居時に重要事項説明書に沿って、利用者・家族に説明している。利用料金や医療機関の対応、個人情報については家族が理解しやすいように工夫して説明している。</p>		
10	12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族の面会時に近況報告をしている。また、健康状態や金銭出納について報告している。面会に来られない家族には、写真にメッセージを添えてホーム便りを送付している。ホーム通信は年3回発行しており、日常の活動状況や外出の様子を報告している。</p>		
11	13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族から苦情や意見が出された時には、その内容について検討会を開いて話し合い、家族に返答している。検討後、すぐにサービスの改善に取り組んでいる。また、併設特養に苦情処理委員会が設置されており、ホーム職員も委員会の構成員となって家族等の意見を運営に反映させている。</p>		
12	16	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動・離職は殆どないが、職員が入れ替わるときには、ケアの統一を図り入居者に不安やストレスを与えないように配慮している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社協職員として採用され新任者研修を受けた後、各事業所に配属される。ホームでは、事業所内研修委員会が設置されており、毎月テーマを決めて内部研修を実施している。職員から研修内容について要望を取り入れて進められている。実施報告書は、月毎に整備され、いつでも閲覧・確認できるようにしている。		
14	18	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	西北五地区グループホーム協会に加入し、協会主催の会合・研修会に出席している。研修会・交流会等を通して意見交換を行い情報の収集をして、サービスの見直しや質の向上に取り入れている。法人内交流として、他のグループホーム職員の交換実習を行っており、互いに気付いた点や良い所を取り入れる仕組みがある。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に家庭を訪問して、家族から生活の様子や情報を集め、家庭環境の確認をしている。また、事業所の見学を利用前に行っており、本人の心理的不安を和らげ、安心と納得のなかでサービスが利用できるように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者は、重度化の中で作業の手伝いからは離れているが、漬物づくりや調理の場面では、人生の先輩として知恵や技術を教えてもらい、共に支え合える関係づくりを行なっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居者の日々の行動や表情から、暮らし方の希望・意向等を汲み取り、把握に努めている。意思疎通が難しくなっている入居者は、家族の面会時にどのようなことが最良なのか相談している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>アセスメント票を活用して、抽出された課題とケアをまとめると共に、職員が収集した情報や本人・家族の要望を聴き取りして、全職員で意見交換して介護計画を作成している。</p>		
19	34	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>月2回ケース検討会を実施して入居者一人ひとりのADL(日常生活動作)状況や状態変化に合わせて、本人にとって一番良いケアを検討している。状態変更時は、当日の出勤職員で対応を検討し、実情に即したケアの見直しを行っている。また、家族・本人の要望に応じて介護計画の見直しをしている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>地縁関係による職員の機能を活かして、在宅サービスを利用しているときから、自宅での生活の様子を聴き、入居希望等の対応ができるよう相談に応じている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望に合わせて、在宅時から馴染みのかかりつけ医へ通院している。緊急時には、併設特養の嘱託医の往診体制が整えられている。		
22	44	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居者の状態低下による重度化に伴い、家族・主治医と今後の方針について話し合いをしている。また、特養への住み替えについて本人・家族へ説明をしている。終末期の入居者がホームの継続利用を希望されたときは、併設特養の看護師・嘱託医と対応について話し合い、看取りを実施している。平成20年度は2名の方の看取りを実施された。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	47	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄時や入浴時は、本人が安心できるように充分配慮した声掛けや誘導を行っている。居室入り口に暖簾を下げたり、扉のガラス部分には切り絵を張るなど配慮している。記録書類等は、周囲の目に触れないように管理している。		
24	49	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな日課は設定しているが、入居者一人ひとりの生活リズムや要望に合わせた対応がされている。当日は、台風が近づいてきており、自室で休息している方やリビングでテレビ視聴して過ごされていた。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>職員と一緒に食事をとっている。食事介助の必要な方が1/3おり、昼食では職員2名が担当している。食事中は、副食の堅さを聴いたり、味付けの感想を話し合ったりして適度な会話があり、和やかな雰囲気である。食器の後片付けは、入居者の負担にならない範囲で手伝って貰っている。</p>		
26	54	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>週2回の入浴を設定しているが入居者の希望に合わせてシャワー浴・足浴を実施している。入居者の身体機能に合わせて併設特養の機械浴を使用し、ゆっくり入浴できるよう支援している。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>入居者の生活歴を活かして、貼り絵や折り紙を使った飾り作りを行ったり、ベランダでプランターを活用した野菜作りや花を植えたりしている。暮らしの中で喜びや達成感を感じることが出来る場面作りを支援している。</p>		
28	58	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>毎月2回野外活動を計画し、道の駅や大型スーパーへのショッピングを実施している。入居者の重度化により全員一緒に外出は困難であるため、少人数で外出している。個別の外出支援についても継続している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の弊害を充分理解しており、入居者の健康状態により止むを得ない場合は、家族に説明し文書で同意を得ている。行った期間の経過については、観察状況が記録されている。		
30	63	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関は施錠せず自由に出入りできるようにしている。玄関にはセンサーがあり、無断で出て行くときは、職員が遠くから見守りながら対応している。		
31	68	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防訓練を実施している。同時に自宅待機している職員との緊急連絡網の確認をしている。消火・避難誘導では、運営推進会議を通して、地区防災協力員による協力体制ができています。災害後の非常食は、取引業者と連携して補充できる体制を整えている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養摂取については、併設施設の栄養士が献立を作成している。入居者全員の食事摂取量をチェックして介護記録に記載している。嚥下機能に合わせて食事形態を工夫したり、1回の摂取量を調整し、回数を増やす等できるだけ摂取してもらえるよう支援している。		
33	75	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防委員会が設置されており、毎月1回委員会を開催している。各感染症に対するマニュアルが整備され、OJTを実施して職員へ周知している。また、併設特養との協力体制ができています。玄関には手指消毒用アルコールが置かれ、来客者・職員・入居者はうがい・手指消毒を徹底している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(1)居心地のよい環境づくり					
34	78	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用フロアは広々としており、アイランド型台所や食卓・応接セットがある。吊り天井には、季節感のある装飾がされている。リビングの壁面や廊下は、入居者の共同作品が展示されている。居室やリビングから見える景色からも十分に季節感が味わえる。		
35	80	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内にクローゼットが付けられ収納容積があるため、自宅から持ち込まれている家具は少ないが、それぞれに好みの装飾がされている。室内のレイアウトは、入居者の身体機能に合わせて、ベッド位置等を工夫している。		

 は、重点項目。